

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 不動園	代表者	河邊和敏	法人・事業所の 特徴	法人理念である「共感と信頼」を念頭に、笑顔でゆったり過ごせる事業所を目指している。住み慣れた地域で可能な限り生活される為に必要な支援を、利用者等の状況に応じた柔軟に提供している。
事業所名	あけぼの荘	管理者	松本草子	事業所の 特徴	職員一同が協力し、常に質の向上と安定した事業所運営を目指している。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	7人	1人	1人	1人	0人	17人	0人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	業務整理する。 情報共有方法を検討し、共通認識出来るようにする。 会議や研修の開催方法を検討	前日の業務手順について全般的に見直しを行った。ミーティングや会議/研修の時間が以前より設けられる様になった。職員やリーダー職の育成方針が定まってきた。苦情や事故は研修や会議を通じて何度も学び、件数が減少した。	ワグメントやネットワークを活用した会議や研修の開催を検討するなど良い時間ではあるが、以前と比較すると大変熱心に取り組まれていると感じる。	①安全に介護が行える空間を整備する(改修工事) ②会議や研修で学んだ事を実務へ活かす、確実に質を高めていけるよう、現場リーダー職の育成を徹底して行う。 ③適切な職務分掌。
B. 事業所の しつらえ・環境	危険箇所は令和5年度中に修繕。片付けや掃除は月間予定に入れる。 業者に対応してもらえらる所は依頼する。	古い建物であり危険箇所は多いが、予算的な事情があり一部改善出来なかった。古い遊具の撤去は完了した。安全衛生巡視を定期実施し、リスクマネジメントに努めている。限られたスペースであり、特に脱衣場はグライパシーに欠く部分がある。次年度改修工事の実現に向け計画進めている。	経費の問題があり改善するにも限界があると思うが、危険と認識されている箇所については優先順位を考えて修繕が進むと良い。非常に狭い事業所であるので利用者も職員も思う様に動けず大変だと思えます。 会議の際は限られた所しか見えないので、事業所全体の事はわからない。(見る機会が無い)	①改修に向け法人本部と共同で取り組む。 ②業務改善によって出来た時間の有効に活用(整理整頓と確実な巡視の実施をルーティン化する) ③職員休憩室を活用した利用者の余暇活動を企画し取り組む。
C. 事業所と地域の かかわり	地域にある介護の相談窓口としての役割を地域の方へ知っていただく為に、広報誌を発行(年2回目目標)清掃活動の継続。	広報誌の初回発行が出来た。今後3か月毎に発行し、常吉区の回覧板を活用させていただく。事業所の機能や役割がまだ地域へ浸透していない事が理解できた。 一昨年より開始した地域清掃活動は事業所内で定着している。(4月から11月まで)地域住民と会話できる機会にもなってきた。	近隣地域は過疎化/高齢化が進んでいるので困っている事は多いと思う。介護や福祉に関する相談窓口として定着してもらえたら良い。 本業である利用者への支援だけでも大変だと思うので、地域と無理に関わろうとすると本業が疎かになったり、事故や苦情、職員の疲弊が発生しない様にして下さい。	①広報誌発行し常吉区への回覧と利用者や家族、関係機関への配布 ②地域にある資源の発掘 ③サロン活動の計画を立案

<p>D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み</p>	<p>アセスメント(利用者情報)の見直し。 生活者として地域との関りや役割をシ ェットに追加し、収集する情報を広げ る。民生委員との連携。</p>	<p>アセスメントを刷新した事で必須項目 と併せ、生活をサポートするうえで必 要な情報(地域に重点を置いた情報収 集)が少しずつ定着しつつある。 地域と連携したケースが増えてきた事 もあり、ケアマネだけでなく現場職員も 地域資源を意識出来る様になった。</p>	<p>地域の行事はほとんどが日曜日 や祝日なので、職員体制が少な いと思われ、無理に参加しな くても良いのではないかと 休日までボランティアしていたら持た ないと思う。 カン活動などしてもらえらるなら、 今ある団体や機関と連携して無 理にならないよう活動してもら いたい。地域を意識した運営を しておられると感じる。</p>	<p>①ケアマネの質向上に向けて事業所内 研修の実施(②今ある団体や活動について情報 収集していく</p>
<p>E. 運営推進会議を 活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の構成メンバーの見直し。 事業所評価を有効に活用できるよ う、総括表を全委員と全職員に配 布。他機関と協同したカン計画。</p>	<p>大宮町内全域を事業の対象としてい る。これまでの構成メンバーは地域が 限られており、その他の区とはほぼ 関りが持たれておらず、連携がし難い 時がある。 担当民生委員と連携できる機会が増 え、利用者を地域で支える仕組みが 構築されつつある。 事業所評価は以前と比較して職員の 参加率もアップし、職員からの意見も 増えてきた。</p>	<p>地域や他機関との連携を丁寧 にされている事が伺える。 新規受け入れの時には連携が図 れる様になってきた。 これまで事業所をよく知らなか ったが、委員になった事で地域 にどんな事業所があるのかよく 理解出来た。</p>	<p>①他の区からも会議に出席しても らえる様に委員の選定や挨拶を令 和5年中に行い、新年度からは一 つでも多くの区と連携出来る様 にしていく ②会議の時に事業所内の見学や利 用者とふれあう機会を設定してみ る。 ③事業所看板の見直し。入口に機 能を示した看板設置。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>BCP(業務継続計画)の完成。定期的な 訓練継続。地域の訓練へ参加。個別 避難計画への参加と周知。備蓄品の 適切保管。</p>	<p>BCPは策定する為に法人内で定期的 に会議を設けて進めており、年度末に は完成する。避難訓練は年2回必ず 行っている。独居高齢者の避難計画 については、市や民生委員と連携 し、同じ情報を保有している。 常吉区内では地域の避難訓練がなく 参加していない。 災害時備蓄品は必要分購入した。 建物の問題で、適切な置き場が不足 しており、一部はサテライト型に保 管している。次年度の改修工事にて 適切な場所で保管する。</p>	<p>地域の独居高齢者の安全な避難 先だと思う。 福祉避難所としてはあまり知ら れていないかも知れない。 利用者が避難された時には区の 担当者へ連絡をお願いします。</p>	<p>①BCPの完成と職員への指導実 施。職員全員がBCPをもとに被災 時対応が行えるよう研修を行う。 ②備蓄品の整備と備蓄品の整理整 頓。</p>